地方建設業界の魅力で地方創生と若者の居場所づくり

鳥取大学　学生会員　○宮内　芳維
鳥取大学　非会員　森田　将悟
鳥取大学　非会員　合田　剛
鳥取大学　非会員　田中　哲哉
鳥取大学　非会員　春山　神紀
鳥取大学　非会員　加納　奈那美

１．はじめに

土木業界では、昨今より若手・担い手不足が叫ばれている。全国の土木を愛する技術者が、若手・担い手不足解消へ向け、多岐に渡る活動を展開している事で、徐々に建設業の就業者数は微量ではあるが増加しつつある事が分かっている[1)]。しかし人材不足の環境はまだまだ厳しく、有効求人倍率は依然として大きい。地方建設業界は特にその影響は受けている。

人手不足解消に向け、建設業各社は採用活動に様々な工夫を凝らし、建設技術者・技能者を確保する取り組みを行っている。しかし、地方建設業界の魅力[2)]はなかなか若者には伝わっておらず、若者はお金よりも大事な事に気付くことが出来ていない故、給与面や福利厚生を優先し、大手建設業社へ目を向ける[3)]。これでは都市部への若年層の流出はますます進むばかりであり、現状のままでは、地方定着を推進出来るとは言い難い。加えて土木業界には主体的かつ作り手となる学生プレイヤーが羽を伸ばし、思う存分に挑戦出来る居場所（プラットフォーム）は存在しない。挑戦したい学生が手を挙げる事がまだまだ難しい環境であり、土木を専攻する学生の中で、そもそもその様な学生プレイヤー自体が数少ない。また、努力する事・行動する事を若者同士でカッコいいと想い合える空気は地方では未だ少ない。そこで、地域の土木を愛する学生プレイヤーたちが中間的立ち位置として、企業、官公庁や大学などの周囲を巻き込む渦、地方定着を推進する活動や挑戦したい意欲的な若者の居場所[4),5)]を作っていく意識啓発活動の必要性を感じ、2018 年 12 月に「NPO ツナガルドボク中国」を立ち上げた。

本稿では、本活動の概要と特徴的な事例を紹介するとととともに、イベントやプロジェクトに参加した学生や社会人の地方建設業に対する印象の変化、共創などから見えてくる地域の現状と本活動の成果について報告する。

２．活動の概要

本団体は、「地方建設業界の魅力で地方創生と若者の居場所づくり」を活動スローガンに、中国地方を活動エリアとして 2018 年 12 月に発足した NPO 団体である。本団体は、鳥取大学にて地方創生を推進する大学職員 1 名と、鳥取大学にて土木や建築を学ぶ学生 5 名から構成される。

本団体の活動目標は 5 つ挙げており、①地方建設業者と連携し、地方建設業の魅力を発信する②建設分野の学生や若手の挑戦意識の向上③建設業の魅力を学生に興味を持ってもらうキッカケ作り④地方建設業を学生に知ってもらい、就職候補先として考えてもらうキッカケ作り⑤「無いならば、作れ！」の号令のもと、（文句を言う）口よりも手と足を動かし、圧倒的行動力と臨機応変力を鍛える。これら 5 つを活動の中で必ず心がけている。5 つの目標を守れば、どのような挑戦も許可しており、そのような環境が意欲的な学生の挑戦を可能とし、大学、企業、官公庁の協力のもと、それらを後押しする。

キーワード　地方創生，地域活性化，主体的かつ作り手となる学生プレイヤー，魅力発信，若者の居場所
連絡先　〒680-8550　鳥取市湖山町南 4 丁目-101　鳥取大学 地域価値創造研究教育機構　ＴＥＬ0857-31-5922（森田）

３．特徴的な活動事例

(1) ロールモデルとなるような土木技術者と将来に悩む学生の交流会「ドボクのツナガリ in 鳥取」

建設業では現在、若手不足が懸念され、その上、学生たちは建設業の詳しい内容がわからない者も少なくない。地方の土木業界で働くことの魅力を若手に伝えることで、学生の抱く懸念解消を主な目的として、このイベントを企画した。

各業務に携わっている社会人に出勤してから家に帰るまでどういった仕事をしているのかを紹介していただいた。また今までの仕事で一番面白かった仕事を紹介していただくことで若手に働く事の魅力も発信した。さらに大学生と歳の近い若手社員が話すことによって大学生が質問しやすい空気作りに努めた。鳥取大学の学生に土木の魅力や、仕事のやりがいを知ってもらうと共に、進路相談なども行えるイベントになった。その後懇親会を実施し、盛り上がりが見られた。

(2) 鳥取大学で活躍する学生プレイヤー同士が出会い、共創するキッカケを生む「はじめの一歩」

地方建設業の魅力を他分野の人間にも広く伝える為には、他分野の人間と連携し、伝えていくことが必要であると考えた。故に、他分野の方と共創するキッカケを生み出そうと、学内・学外問わず積極的に活動している学生同士が出会う場を作り、議論した。

鳥取大学の学生が相互に協力しあい、高め合う空気感を作り、普段の活動に加えて、各業界の情報を交換する場として有用である。他業界での取り組みの本質を捉え、パターン化することで、それらは必ず本団体の活動にも活きるからだ。それが次の「Cement Meeting！」である。他業界だからこそ気付くこと、伝える事の出来る魅力があると考えた。

(3) セメントを中心に、様々な方面から魅力を発信する「Cement Meeting！」

「セメントへの愛を語る」をテーマに、①セメントで花器を製作する学生②柔らかくも固く薄い意匠性に富むコンクリートやコンクリート製のスピーカー、ピアス（https://kooge.co）などを製造販売などしておられる郡家コンクリート工業さん③コンクリートに関する研究を行い、SNS を通じてセメントやコンクリートの魅力を発信し、多数の PV を稼ぐコンクリートブロガーさん（https://note.mu/cncrt）④ひょんなことからセメントに魅せられ、セメントの魅力を発信しておられるセメント女子（http://www.cement.co.jp/yukeyuke.html）、以上の 4 名をお呼びし、各氏が取り組んでいる活動についての想いや愛を語っていただいた。学生からは「こんな授業なら絶対に土木の事を好きになれた」など多くの好評を頂き、他業界だからこそ伝える事が出来る土木の魅力は確かに存在する。

紙面の都合上、まだまだ紹介出来ていない活動は他にも多く存在する。イベントは計 7 回実施した（本論文提出時）。本年は計 20 回のイベントを企画しており、詳細は HP（https://tunadobo-c.com）を見て頂きたい。

４．本活動の中で見えてきた地域の現状と成果

NPO ツナガルドボク中国が展開するイベントやプロジェクトは参加者には好評であり、学生と社会人の距離は以前より縮まりつつある。また、地方就職への偏見は学生間で少しずつだが減少の傾向へ貢献出来ていると感じている。しかし、全国的に見るとまだまだ地方就職への偏見は多い。学生自らが学生に働きかけ、地方の魅力を伝え、学生を変える事が大事である。また、建設分野を専攻するにも関わらず、建設業界以外の業界を目指そうとする学生が多い事実にも、本活動を通じて認識した。大学教育の中で、学生に対して建設業の魅力が上手く伝わっていない故に、例え建設分野を専攻していても、単位取得の為のみに大学生活を過ごしている学生が多い。そのような学生は惰性で建設業界へ就職するか、魅力に感じる他業界や大手建設会社への就職活動を展開しがちであることも分かった。本活動を通じて地方建設業界の魅力を同じ目線で伝える事が出来る本団体の学生が働きかけ、巻き込むことで、そのような学生も少しずつだが減ってきていると考えている。今後も、より大学や地域との連携が必要であると考えている。

本団体での活動は参加者だけでなく、団体側の学生自身の成長にも大きく寄与している。自ら自発的に手や足を動かし、行動し、若者から大人を巻き込み働きかける。それらを通じて座学だけでは絶対に得ることの出来ない能力を得る事が出来ている。特に今若手に必要とされている企画力と行動力[6)]の育成が確実に出来ている事が活動を通して見受けられ、本団体の活動は、地方建設業界にとっても学生にとってもお互い良い事であり、継続していきたい。

５．まとめ

地方は都会に比べ、地方の会社を知る機会や何か物事に挑戦する機会の損失が多い。意欲的に活動しようとしても、周りの雰囲気に押し潰されやすい。現代社会では、やりたいと夢を語れば「意識が高い」と周りに笑われる。そんな中、若者が希望を持って思う存分に挑戦出来る場所として本団体は存在する。これからも多くの活動を通じて、“受け手”ではなく“作り手”となる土木を愛する学生を増やす、そのキッカケを提供する。それが建設業界の昨今の問題である若手・人手不足に対する本質を突く事が出来ると考えている。これからも本団体の活動に注目して頂きたい。

NPO ツナガルドボク中国は、団体に所属している構成員、イベントやプロジェクト参加者各位、関わってくださる地域の建設業の方々の協力により実施しており、活動を継続する事が出来ている。多大なご支援を頂き、ここに記して関係各位に心より感謝致します。

[参考文献]

1) ヒューマンタッチ総研 Monthly Report（平成 31 年 3 月），
＜https://kensetsutenshokunavi.jp/souken/wp-content/uploads/2019/03/201903.pdf＞，
（参照 2019 年 4 月 2 日）
2) 【地域建設業こそ本来の姿】建築家で東大名誉教授の内藤廣氏が新群馬建設会館式典で講演，
＜https://www.kensetsunews.com/web-kan/306385＞（参照 2019 年 4 月 3 日）
3) 福岡市土木建設協力会トップが語る、都市土木、修正協議、地場建設業者の近未来，
＜https://sekokan-navi.jp/magazine/23485/4#anc-0＞（参照 2019 年 4 月 3 日）
4) 革命プラットフォーム #やさしいかくめいラボ，＜https://www.kakumei.in＞（参照 2019 年 4 月 2 日）
5) 平成 30 年度土木学会 小林潔司会長情報発信プロジェクト 第 17 回「地方創生と土木」，
＜http://committees.jsce.or.jp/transmit_project/system/files/interview20190128.pdf＞，
（参照 2019 年 4 月 2 日）
6) 会長が語る、働く若手技術者へのメッセージ-今若手に必要なのは企画力と行動力- 土木学会誌，2016.6